

第5回「食生活ジャーナリスト大賞」を受賞しました。

一般社団法人日本調理科学会は、全国を網羅する聞き書き調査に基づく「伝え継ぐ 日本の家庭料理」(全16巻)の出版により、第5回「食生活ジャーナリスト大賞(食文化部門)」を受賞しました。

授賞式は、3月29日(月)日比谷図書文化館で行われ、香西みどり 創立50周年記念出版委員会委員長が「家庭料理を伝え継いでいく意義と調理科学からの情報発信」で受賞者スピーチを行いました。授賞式での祝辞では民俗学者の宮本常一の研究に匹敵する、いや宮本がなしえなかった研究成果であり、大変感銘したとのお言葉を頂きました。調査・著作にあられた学会員の皆様のご尽力が高く評価されました。

「食生活ジャーナリスト大賞」は食に関する情報発信や食文化(食育、料理、調理、地場産業の振興、食文化の継承など)の分野ですぐれた活動や業績を残している個人または団体を顕彰するもので、2016年に創設されました。ジャーナリズム部門と食文化部門の2部門からなり、ジャーナリズム部門では株式会社料理通信社が受賞しました。

授賞の講評は以下のとおりです。

「約350名の会員が調査にあたり、昭和35年から45年頃までに定着していた各地の家庭料理で次世代に伝え継ぎたいものを地元の人たちに聞いた。各地の家庭料理を歴史や生活習慣などその地の暮らしの背景とともに記録し、その地の風土に基づく伝統的な調理法の知恵や合理性を科学的に紐解くと同時に、次世代以降も作り続けることができるように現代の家庭で再現できるレシピを収録している。また、同じ料理や食材の地域ごとの特徴や違いが分かりやすい構成となっている。伝統的な地域の料理が親から子へ伝承されにくい傾向にある今、家庭や教育現場において食文化を伝え継ぐ貴重な資料となるものと期待される。」

